

# 三・色・旗

文部科学省認可通信教育  
慶應義塾大学通信教育部

特集 学びの世界へ



10

2002

# 非宗教的英語学習へのおさそい

吉田 恭子



さまざまな英語本は無数の方法論で私たちを誘惑する。「本書の方法で今までの苦勞がウソのよう、目から耳から鼻から英語がスイスイ！」このロジックはダイエット本にも当てはまる。さらには宗教の勧誘に似ている。自らが英語上達の「奇跡」を体験した「信者」によって書かれた英語伝道本は実は皆同じことを言っている。「信ずれば救われる」と。残念ながら私には教祖的熱情をもって一つのメソッドを読者に売り込むことはできな

い。自分自身に合った勉強法を見つけること、すなわち自分で自分自身の教祖になれとしか言えない。

## 1 読解力育成のために

それで終わってはしかられるので、話を読解力に絞ろう。数ページから数百ページにわたる英文を読んで、その内容を正確に把握するために必要な能力とはなにか。多少強引に抽出すると、①語彙力②文法力③理解力の三点。①は永

遠に続くバトル。私が米国で学んだエジプト人教授は、大学院生時代知らない単語とその定義をペンで上等の小型ノートに書き取るのを習慣とし、今でもそのノートは宝物であると言っていた。彼は留学生の私だけにその話を聞かせたのではない。英文科の大学院ゼミ生全員に語っていたのだ。どんなレベルにおいても語彙力は向上の余地がある。いくつになっても花より単語。よい辞書と根気が不可欠。

現在は種々の電子辞書が出回り便利になったが、紙の辞書も手放さないでほしい。人間の目は瞬間に情報をスキャンしソートする能力があるから、語法や熟語を探すときは紙の辞書の方が重宝。電子辞書の中には用例の省いてあるものもある。また電子辞書はいったん単語にたどり着くと、その前後の単語が見えなくなる。書き込みができない。複数のしおりが使えない。手っ取り早く意味を調べるには使えても、語彙力育成には向いていない。

②の文法。高校までに教わる文法には二つの側面があった。入試に代表されるいわゆる「文法問題」を解けるようになること、日本語とは全く異なる仕組みの言語の決まり

ごとを大人数の教室でいかに効率良く日本語で説明するか、の二点である。その効能を否定するのがはやっているが、やはり日本語を母語とするものが効率良く英語の仕組みを知りたいければ使い慣れた学校文法の教科書は有用だ。その貴重な文法力をいかに生かすか。英文和訳でも作文でもなく、英文読解のために必要最低限の文法とは、辞書を引くのに必要最低限の文法であり、すなわちある単語の文中における品詞を識別できる（よって辞書の中のどの意味があてはまるのかわかる）力である。そのためには、品詞の種類を知る必要があり、五文型の判別がつかると便利で、さらに五文型の要素をなさない修飾部分（語、句、節）が抽出できるとよい。あとは辞書を引く。逆に言えば、どんなに単語を暗記しても品詞等の判別がつかねると文意がつかめない。他の知識として、疑問文、否定文、そして態と法と時制の区別や、文中の切れ目の見分け方もあるが、とにかく最低限は辞書を引くための文法力。あとは根気よく辞書を引き続けること。そうすれば時間とともに文法と語彙力が相乗的に向上する。

中級以上の学習者は積極的に英英辞典を活用してほしい。語彙力、理解力向上の助けになるし、なんといっても「所与の英文」→「理解する」というプロセスを圧倒的に迅速にするからである。日本語を母語とする私たちは、「所与の英文」→(日本語による英文法を用いた文章解析)→(不明な語句の検索)→(和訳)→「理解する」というプロセスを教室での集団学習で繰り返してきた。しかし英語と日本語はあまりにかけ離れた二つの言語であるから、右の方法は日本語しか言語を知らない初心者には仕方ないとはいえず、とてつもなく非効率の解読方法であることは自明である。最終的理解にいたるまでの無駄はできるだけ省くのが道理。そこでぜひ英英辞典を使っていたきたい。(Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, Tenth Edition など)

最後に③理解力であるが、これは細部と大筋を的確に関連づける力であり、ものごとを論理的に分析できる能力であり、大切なことをすぐには忘れない記憶力である。日本人の間では無口で人見知りする人がいきなり英会話の達人になりえないのと同様、日本語新聞の論説文を読んでその

エッセンスを把握しかねる、昨日見た映画の大筋や人物関係をうまく友達に伝えられない、といった場合は英語力以前に理解力の問題である。日本語を読むときに、文章の道筋にもっと意識的になってみよう。論旨の構成、段落同士の関係、各段落の主張と流れ、筆者は自らの主張をどんな風に変えつつ繰り返しているか、具体例の挿入、反論のレトリックなど。

## 2 テキスト選び

続いて読解訓練用のテキスト選択である。とにかく自分の興味があるジャンルのテキストを探すのが第一。テキスト選びに際し、なぜ自分は英語を学習したいのか、身につけた英語でいかに自分の生活・人生を充実させたいのかという問題を考えてほしい。私は高校で英語が大嫌いだった。理由はいくつかあるが、テキストにもその一因があった。笑えない小話群、感動のない教訓話、とことん味気を抜いた文芸作品のリライト…これを何年も読まされれば、つま

らない文章を読む苦しみを英語を読む苦しみに混同するのも自然である。あなたが読みたい文章はあなたしか知らない。以下は私の提案でしかない。なにを読むにしろ、とにかく読了すること。達成感は自信にもなる。わけがわからなくても最後まで読む勢いで進んでほしい。

新聞は最も広くお勧めできる読解教材である。日本の英字新聞の方が私たちの日々の興味に即しており、理解しやすいだろう。新聞のオンライン版も活用しよう。

教養のために英語を読みたいという人には、最近刊行された *The Seagull Reader: Essays* (W. W. Norton & Company) に挑戦してほしい。安価で持ち運びやすい上、装丁もよく、一般読者向けの充実した内容。*The Seagull Reader: Stories* もある。

「英語で考える」疑似体験をするには、論理そのものについての文章を英語で読むのがよい。アメリカの論理学者 Raymond Smullyan は日本にもファンが多い。*Alice in Puzzle-Land* (William Morrow), *The Chess Mysteries of Sherlock Holmes* (Times Books) などは楽しく読める本格論理本だ。

米国の大学院留学を志す人は LSAT や GRE 共通試験の分析力テストを読み解いてみるのもよい。身近な例に基づいたパズル感覚の問題がそろっている。(Karen Lurie, *LSAT/GRE Analytic Workout*, Princeton Review など)

とにかく長文が苦手で書籍どころかまとまった文章を読了する自信のない人は超短編 flash fiction がお勧め。1ページから5ページ程度の短さで、ひねりのきいた小品が多く、楽しめる。星新一が好きだったという人は試してみよう。(Flash Fiction: 72 Very Short Stories, W. W. Norton & Company など)

自分が好きな日本の作家を英語で読んでみる。ときに目を覆うような翻訳があるのでリスクもあるが、たとえば村上春樹はよい翻訳者に恵まれている。(Alfred Birnbaum 訳, *A Wild Sheep Chase*, Vintage Books; Jay Rubin 訳, *Norwegian Wood*, Vintage Books など)

英語で官能小説。はたしてコーフンできるか。ロマンスを読んでうっとりできればしめたもの。ハーレクインシリーズは一定のフォーマットにのっとって読みやすく書か

れている。(www.erotica-readers.com, www.eharlequin.com)

マニュアル本を英語で読んでみよう。ゴルフ、園芸、コンピューター。モデルシップの説明書。洋裁の型紙。チェスやゲームの攻略本。自分が働く業界や趣味の雑誌も良いテキストになる。

意外かもしれないが、読解力養成のために、音声教材は実に役立つ。文章にはその理解と鑑賞に密接に関わる流れや息遣いがあるもので、日本語朗読の重要性が今盛んに言われるのも私たちの日本語理解力低下と無関係ではないだろう。英語ならプロあるいは作者自身が朗読するテープを活用してほしい。私も以前 Henry James 作 *The Ambassadors* の朗読を聴いて、目からウロコの思いをした。アメリカでは多忙な読書人向けにオーディオ・ブックと呼ばれる CD やカセットテープが充実しており、これらも洋書同様、インターネット書店で容易に入手できる。最近のベストセラー、名作文学や、古典的娯楽作品(アガサ・クリスティーなど)はほぼ CD 化されている。睡眠学習の友にも最適。

たとえば Harry Potter (J. K. Rowling, Scholastic) だと、

原書、翻訳、映画に全文無削除朗読 CD (Jim Dale ナレーション, Listening Library) から、『世界一かんたんにハリー・ポッター 4th が英語で読める本』(藤城 真澄 著, ぶんか社)といった懇切丁寧な参考書まで全部まとめて手に入る。こうなると一冊読了できない言い訳をひねり出すほうが難しいのではないだろうか。

[よしだ きょうこ 文学部助手 アメリカ現代小説、創作 2001年ウイスクンシン大学ミルウォーキー校英文学科創作専攻博士課程修了。主要論文・作品——“Between the Imperial Garden and Temple Street.” *Cimarron Review*, 139(2002). “Chick Sexing School.” *Red Cedar Review*, 36.1(2001). “Kyoto Panorama Project.” *The Massachusetts Review*, 151.4(2000). “The Big Question Mark: Analyzing the Mysteries in J. M. Coetzee’s *Foe*.” 『人間環境学』8.]